

通信団に対する5つの波と3S

通信団長 大久保利通



信友会の皆様には、常日頃から心温まる御指導と御鞭撻を賜り心から感謝とお礼を申し上げます。

最近の新聞報道等を見ますと通信・情報関連として、五つの波が二〇〇七年頃を目途に押し寄せているのではないかと考えております。

先ず第一の波は、現在内閣官房にサイバテロや災害などでシステム障害が発生した場合、早期に復旧するために官民で対処する体制の整備として「国家情報セキュリティセンター」が設立され、情報インフラ防衛を目的に、本年度は三十五人規模でスタートし、来年度は六十人体制に強化して本格的に対応するよう動きであります。次の波は、総務省が提唱している「国内電話二〇〇七年にIP化」の件であります。庁・自衛隊の固定通信インフラも昭和六十年からの装備でかなり老朽化していることから、極めて強いインパクトがある通信インフラへの変革の波です。更に「ICTが物産等の管理を行う物流システムを自衛隊の海外派遣時の補給物資や医薬品等の八分程度で今年度実施し、逐次実用化を図っていく」という経産省の動きもあります。また、通信団においても災害等情報共有システムとして開発・普及していることに関連する「大規模災害時二〇〇七年を目途に大規模延滞情報連携電話に(代替輸送状況も含む)配信」できるシステムの開発を国交省がやるようとしている動きもあります。最後の波は、防衛庁として統合運用のための情報通

信態勢の強化と統合通信における通信伝送路の整備であります。これは、防衛庁の中期計画の中で策定されているものであります。

このような五つの波の背景の中、通信団の状況を考えた場合、次の三つのSに代表される環境に位置し、更に統合運用という時代の流れからも次の三つのSが要求されているのではないかと認識をしております。

現在、通信団の置かれている環境の第一として、スリムな状態、即ち人員の低充足、特に新ポスト増に伴う若手幹部の減、整備費等の減、そして器材の老朽化等、隊力的に極めて厳しい状態が継続していることです。二つ目は自衛隊が共同体から機能組織に転換しつつある現在、自衛隊の行動・活動に対して準備時間に余裕がないが、全ての仕事に安全と確実性が要求されているセキュリティの状況にあるということです。更に、三つ目はSは、ITの進歩に対してレベルアップする使用者のニーズ、特にクイックレスポンスとベストサービスの要求が常態化しつつあり、それに対応できる優れた技術のスペシャリティの要求であります。

以上、二〇〇七年頃を目途とする国内の大きな通信・情報の五つの流れの中、通信団が置かれている三つのS環境を踏まえながら統合運用における「統合通信の確保」の観点から、迅速・確実なシステム・通信の確保スピード、指揮系統を簡素化し目的に応じた単一指揮が可能なシステム、通信(スマート)、更に暗号、周波数、器材等の共通化(スタンダード)の三つのSが要求されていると認識し、通信団として「まず、平時対応(抗堪・即動)そして有事(拡充・強化)へ」と考え方を再セットし、サイバ攻撃等対処も重視しつつ、

通信科職種の意識改革

陸幕通信電子課長 盛一 丈嗣



信友会の皆様には、平素から、陸幕通信電子課をはじめ、全国の通信科部隊等、温かいご指導、ご鞭撻をいただきこの場をおかりして、御礼申し上げます。

昨年三月に、防衛計画の大綱及び中期防衛力整備計画が閣議決定され、新たな陸上自衛隊がスタート致しました。また、イラク人道復興支援が二年目に入る中、一月にはインドネシアに、十月にはパキスタンに国際緊急援助隊が派遣される等、多様な任務に対応できる陸上自衛隊を示すことができました。

このような国際貢献活動等を確実に遂行できるのは、カンボジアを始めとする国際貢献活動を通じて多くの経験を培うとともに、自衛隊員はもとより、国民を含めた意識改革による環境醸成のためのものであると思います。

我々、情報通信分野においては、かつての通信・電話等のアナログから、現在ではコンピュータとの融合によるIP電話を含むデータ通信等のデジタルへとめざましい変化が起きました。

自衛隊の通信も一般社会よりは少し遅れつつも進化し、十八年度予算要求においては、平成二十三年からの装備化を目指し、「新野外交信システム」の開発試作を要求しています。本システムは、最新の技術を結集すると共に、民間

更には「対処から予防措置」を念頭に置いた隊務運営を図っているところであり、引き続き、信友会の皆様におか

れましては、重ねて通信団に対する御指導と御支援をお願い申し上げます。

インフラとの接続も進展させ、「新たな脅威や多様な事態への実効的な対応と本格的な侵略事態への備え」を支える第四世代の通信システムです。技術的には、ある意味「戦場ユビキタス」とでも呼べるような通信を目指すものです。そのような変化の中で、我々通信科隊員には、大きな意識改革が求められています。

たしかに、情報通信技術の進歩に伴い通信運用も逐次に変化してきました。例えば、通信組織については、指揮所等の地域に合同通信所を配置する発想から地域の特性に応じたノードを配置する発想になりました。しかしながら、今後、更に、特定の使用者を想定した「線」ではなく使用者を意識しない「面」を主体とした組織の構成が必要となります。

また、師団等野外部隊の通信運用では、平時と有事を区分し、「有事においては、野外部隊通信組織と一部においては基地通信組織とを接続して通信組織を構成する」としていますが、将来、いや現在においてもすでに、有事平時を問わず、基地通信組織と野外部隊通信組織を一体とした運用が必要となつてきています。

編成等としては縦列のピラミッド型のもので基地野外を包含したフラットなクラスター型の部隊等を検討する必要があると思われま

また、このようなシステムを主体とする通信運用の具現化のために、その時々部隊運用に柔軟に対応し、装備品に民生品を組み合わせた運用を必要があるのでは

現にイラクにおいてはそ

のような運用を行っています。今後とも速度をはやめ進歩していく情報通信技術の環境下では、新たな発想を求められます。新たなシステム等の機能を十二分に活用し、与えられた任務の達成をはかるとともに、一歩進んで、今までのニーズに応えるためのシースとしての通信運用等から新たなツール(システム)のシースから部隊

通信電子補給整備を取り巻く環境・要求の変化と対応について

補給統制本部通信電子部長



一前言

信友会創設四十二周年、誠に改めてご御座います。また、日頃か現場に心温まるご指導・ご協力に誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

また、新防衛大綱が決定され、新中期防二年目の平成十八年度をまもなく迎えるわけですが、お陰様でその初年度は何とか無事任務を完了しつつあるところで

安全環境環境変化や敵しい予算状況の中、益々即応性が要求される第一線装備品等の可動率向上のため、調達環境整備業務の合理化、効率化を図って参りましたが、この状況は十八年度も継続し、更に各部隊からの要求は質・量・時間ともに益々厳しくなっているものと思

また、これからのシステム・通信、更に部隊運用等に変化をもたらすであろうFICSやREC S等の野外基幹システム装備が逐次部隊に導入されるとい

話題もあり、大いに期待するとともに、その導入・支援に細心の注

運用(ニーズ)そのものを変えるといった意識改革を図っていくことも重要だと思っております。陸幕通信電子課長として微力ながらも、通信科職種の意識改革の発信源となれるよう今後とも努力してまいりますので信友会の皆様のご指導、ご協力をお願い致します。

意を払って準備しているところであります。二 最近の通信電子補給整備を取り巻く環境の変化等

安全保障環境の変化により、防衛力整備、平素の態勢や訓練のあり方等は著しい変化を遂げており補給整備正面においては例外

はありませんが、特に行動して評価される部隊にとってはこの変化に対応できることが急務であり、一例を挙げますれば携帯無線機・暗視装置等の使用頻度やバッテリー使用量の増加等現場レベルからの我々への要求は質量ともに変化を遂げていることを実感しています。

これら現場の先行する要求と防衛力整備進捗との狭間にあって、いかに第一線部隊の要求にこたえていくかが重要なポイントであると認識しています。あわせて、厳し

い防衛予算環境下において更新の遅れとこれに起因する補給整備上の問題や新たに発生する様々な要求等に対して効率的な経費執行のための各種対策を講じていかな

てはなりません。平成十七年度末には統合運用体制へ移行します。補給整備正面にお

いても相互運用性向上の観点から、要求に陸海空足並みをそろえて対応して行かなくてはなりません。総合取得改革や環境問題も対応

していかねばなりません。さて、平成十八年度は新後方支援体制も施行の段階となります。部隊において定着して参りました

が、更に業務の充実改善を図っていくかなければなりません。また、陸幕業務移管から三年目となりますが、両者に共通していえることは「支援と被支援」、「予算と執行」の関係において両者の乖離防止・緊密な連携を図っていくかなければならないことと考えています。試行間の反省を加え初心を忘れずに引き続きその趣旨を追求していきたいと考えています。

昨今の通信電子技術は著しい状況にあり、追いつけ追い越せの気概で日夜勉強をしていかなければなりません。

補給整備正面においてこれらの技術にいかに対応していくか、また、早期陳腐化にいかに対応していくか等々課題もあります。スパイラル開発による技術への追従の一方、三世同居の装備品への対応等々はその例です。

また、野外装備のシステム化とシステム・オブ・システム化は補給整備要領等に新しい対応を促しています。COTS多用化への対応やセキュリティ対策、そして、システム装備品の形態管理等これまでの業務をこれらに対応して改善していかなければなりません。

三 結 言

以上のように通信電子補給整備正面においても相当な変化が起きております。これらの変化に対応すべく日々頭を悩ませているところ

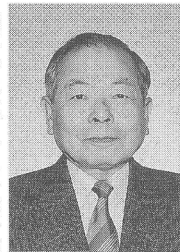
です。ご支援・ご協力を一層のご指導・ご支援「プロとしての責任」に対する責任「プロとしての責任」を全うできるよう今後とも精進いたしますので宜しくお願いいたします。

振り込みのお願い

今年度は会員の皆様方から通信等事務費を払い込んでいただく年です。同封の振込用紙により振り込み下さい。よろしくお願いいたします。

近況あれや・これや

熊本県 嶋崎 五月次

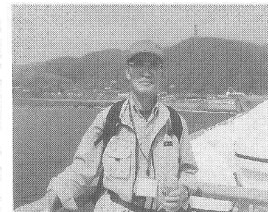


熊本県に転居して早や七年余、
齢七十三。信友誌上をお借りして
近況など報告し、ご無沙汰を謝し
たい。
自衛官三十四年。余様の会社員
が十二年合せて四十六年間多く
の方々にお世話になりました。
古希には思いますが、叙勲を賜
り更に信友会からお祝いを頂きま
した。
お蔭様で健康で幸せに暮らして
おります。有難うございます。こ
れからも淡々としぶとく生きたい
と思ひますので今後とも宜しくお
願ひいたします。
退官して二十年近くなるこの頃
小隊長や生徒の区隊長時代の若い
頃の夢を見ることがある。
筋書きもはつきりしない奇妙な
夢だが不思議なことに出演者の当
時の顔は鮮明である。家人から
「年を取った証拠・ドラマの見す
ぎ」と馬鹿にされるが昔のことを
良く思い出し、最近の事は見事に
忘れる。痴呆の始まりかご用心ご
用心。
ところでいつだったか某先輩が
「昔はものを思わざりけり」とい
われた。私など三十四年も軍人し
ていて一度も砲撃弾雨の経験も無
い、古今東西稀有ではないか、少
し残念なような気がするが幸せだ
たと思ふべきだろう。
あれからカンボジアに始まり現
在はイラクで危険を伴う任務が続
く今は西方から七次・八次の隊員
が派遣され頑張っている。派遣隊
員を選定する部長、命により赴

く指揮官・隊員諸官の思いいかに
かりか察して余りあり、曰く「昔
は・・・」とは思ふこのころで
ある。切に無事を祈りたい。
六十五歳で熊本へ、爾来自発的
失業者(無職者)である。加えて
私にはよるべき縁故の部隊もOB
会もない(なかった)。
肥後人は「わさもん(新しいも
の・こと)好き」と自他共に認め
ていとおと、最初のころこそ小
中高のクラス会、公私の知人友人
から「ようこそお帰り」の太歓迎
ひととおり終われば、そこまで。
ツーカーで卓を囲み、巷を徘徊
できる悪友のいる東の空を想んだ
そんな時、やっばりさきで、紫紺
の色の髪めかして我がが通信科
信友の絆「通信群のOB特別会員
とする協力会に入会し群や総監部
の諸行事にも参加せよ」と、また
八通OB総会から是非参加を。
お蔭様で年に数回は隊員諸官や、
在京等からの現役・信友の皆様と
お会いできる、これまた感謝感謝
である。これらと連動して今では
隊友会・支える会(熊本は存続)
その他で整理が必要なくらい。
さてこの頃ハマツタ社に就いて
のがボランティア、当地では中高
年者の社会教育が盛んで地区の公
民館で郷土史・書道・水画など
受講していたがある日、市の福祉
施設を訪ねた時、一人の高齢のこ
婦人に出会った。自らも視覚障害
者でありながら一生をかけて障害
者の自立を支援されている、純粋
さとひとむきな情熱に心酔した。
以来、毎週一日先生のお手伝い
しながら、奉仕の心と手話を習っ
た。丁度三年前の春に先生の訃
もあり老若男女三十数名の同志と
ボランティア・グループを結成し
今は主として、施設のお手伝いと
小学校の五・六年生の総合学習の

防人災害ボランティア活動

東京都 気楽屋 和平



平成十七年四月、第二の定年を
迎えました。退職後何をしようか
悩むところですが、信友会の先輩
方々のアドバイスを受け、東京都
隊友会事務局、NPO防人防災ボ
ランティアセンター、千鳥ヶ淵戦
没者墓苑奉仕会等でボランティア
活動を手伝うことになりました。
お陰で、現役時代より忙しく、今
年は、夏休みも取ることは出来ま
せん。喜んでいられるのは古友
房、退職後家でウロウロされる心
配がなくなり、自分の生活リズム
をダメ草主に犯されないので、草主
元気で留守が一番と言っています。
退職後の最初のボランティア活
動が五月二日から一週間の「三
宅島島民帰島支援」でした。今で
は、ニュースにもならない程に、
三宅島は徐々に元の生活に戻って
きています。既にご承知のように
三宅島は平成十二年六月の噴火か
ら八月には、全島民の避難が行わ
れました。有害な二酸化硫黄を含
んだ大量の火山ガスの放出で、今
年の二月まで四年半に渡り東京で

の避難生活を強いられました。
現在も火山ガスの放出が止まらな
いままに、「火山ガスとの共生」
を基本に、約二〇〇世帯・二五
〇〇名(七年九月現在)の島民
が帰島し、住み慣れた三宅島の復
興を期待し豊かな自然の生活を取
り戻し始めたのです。
NPO防人防災ボランティアセ
ンターは、東京都隊友会が中心と
なり大規模震災時の救援活動や各
地方自治体の防災計画や防災訓練
の支援を行うことを目的に設立し、

現在約一〇〇名の会員が活動して
おります。これまでも東京都の防
災訓練への参加や中越地震への派
遣、災害情報の提供等日頃の活動
を行っております。三宅島の帰島
支援は二月から一週間交代で活動
してきました。主な支援は、「島
内引越のサポート」、「生活環境の
整備サポート(火山灰の除去、雑
草・粗大ゴミの除去等)」、「老人や
身障者へのふれあい交流」です。
四年間家を留守にする火山灰と
ガスで半崩壊、水回りは全部交換
しなくてはなりません。家の周
り、雑草と苦竹に占領され、こ
れを取り除かないと家にも入れな
い状態でした。帰島する島民の先
駆けとなつて生活基盤の復興を支
援したので、朝八時から夕方五
時まで全国から集まった若者と一
緒に一軒・一軒生活できる環境に
整備しました。これらの支援も七
月半ばで終了し、この夏は観光客
をも迎えることが出来るようにな
ります。ガスで立ち枯れた樹木
も根元から若葉が芽を出し、小
鳥が囀り緑の島に蘇ってきました。
青い海もサンゴが生き返り、大き
なエビが取れるようになりまし
た。

・ 三宅島の ホットギス
・ 灰まみれ ばあさんの涙に清め
られ
・ 村興し ボランティアの波
・ 若者が混じった野外の活動は
大変ですが、元自衛官は今まで培っ
た知識と技能を持っており、現場
でも貴重な存在でした。災害ボ
ランティアは直接的な救援活動も大
切ですが、事後の復興支援も住民
の生活を支えるのに重要な活動で
す。今後は、何時起こっても不
慮でない大東京の震災対策に、
に協力しようという地域の災害対策
に入り、救命救急の講習を受け、
防災訓練や救援活動にも参加して
います。退職後のボランティア活
動も始まったばかりで、無理せず
自分の力の範囲で隊友会の仲間や
地元の人々と協力して、地域の災
害対策や防犯活動の一助になれば
と「防人防災ボランティア活動」
の輪を広げて行こうと思っています
です。信友会の皆様のご加入を期待
しております。

計 報 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

(H17.11.7現在)

氏名	逝去年月日	年	住所	TEL
野村 明	H16.01.01	330-0012	埼玉県さいたま市見沼区東宮下1349-26	048-683-5911
赤澤 善之助	H16.04.19	114-0024	東京都北区西ヶ原1-14-12	03-3910-0269
高岡 克己	H16.04.23	245-0005	神奈川県横浜市区泉区白百合2-16-15	045-811-7917
小島 義徳	H16.05.02	838-0051	福岡県甘木市小田2022-2	0946-24-3220
重田 耕二	H16.05.04	273-0115	千葉県鎌ヶ谷市東海道野辺6-4-60	047-444-5557
大久保 博	H16.08.03	870-0026	太分県太分市金池町4-4-5401	097-532-3572
高木 成徳	H16.11.28	186-0004	東京都国立市中3-6-2	042-572-0425
江村 敏郎	H16.12.02	247-0002	神奈川県横浜市区栄区小山台2-7-14	045-892-8896
浅井 敏一	H16.12.18	358-0008	埼玉県上福岡市元福岡2-14-3	049-263-2691
林田 薫	H16.12.22	229-0004	神奈川県横浜市区栄区共和1-6-20	042-754-7743
岡村 敦弘	H17.01.03	754-0897	山口県山口市基川5260-3	083-989-5340
村田 邦明	H17.02.17	178-0063	東京都練馬区東大泉3-29-20	03-3922-5866
田中 邦明	H17.02.28	177-0032	東京都練馬区谷原6-7-21	03-3997-6557
長山 照雄	H17.04.11	353-0006	埼玉県志木市館1-1-8402	048-471-2251
安田 三男	H17.04.17	963-1001	福島県郡山市熱海町石鏡字腰切4-013	024-984-5284
桑原 三男	H17.06.07	004-0041	北海道札幌市厚別区大谷地東3-3-1401	011-885-6138
青木 猛	H17.06.28	243-0812	神奈川県厚木市妻田北1-14-161631	046-223-1903
中瀬 一三	H17.07.17	840-0051	佐賀県佐賀市田代2-7-54	0952-22-1590
前田 忠典	H17.10.01	367-0051	埼玉県本庄市本庄2-7-3113	0495-23-0140
豊田 友康	H17.10.05	157-0072	東京都世田谷区祖師谷2-5-27103	03-3482-5350
西沢 正浩	H17.11.03	239-0841	神奈川県横浜須賀野比3-15-1	0468-49-7609

信友会新入会員名簿

(平成17年2月1日現在(信友会掲載以降の入会者))

(H17.1.31現在)

氏名	年	住所	電話番号	勤務先	勤務先電話番号	所属所属
持田 修	368-0044	埼玉県入間郡大井町西郷2-7-22-415	(049)264-2435	日本電気株式会社	(03)5210-4326	北野建設株式会社
森田 修	985-0845	宮城県多賀城市町南3-6-406	(022)362-1408	ユニバーサル・リサーチ・ソリューション	(022)227-2131	東北建設株式会社
黒川 秀光	811-2304	福岡県福岡市東区西戸崎210-8	(092)938-4020	富士通ネットワーク・ソリューションズ	(092)291-1500	16.11.14
佐々木 嘉雄	275-0014	宮城県仙台市青葉区2-9-50-105	(047)454-7894	富士通・システムズ・サービス・センター	(03)5225-6035	16.11.14
藤田 芳樹	274-0077	新潟県新潟市東区南1-12-18	(047)469-4725	東京海上自動車火災保険 株式会社	(03)3375-8121	16.11.14
金井 浩	763-0031	九尾市城南町92	(087)75-0670	14ビルサービス株式会社	(087)838-2740	2.10.11.14
上田 萬雄	273-0022	福岡県市海神町2-1-1-831	(047)433-1302	アークツ 株式会社	(03)8741-3251	16.11.21
加藤 三千夫	383-0009	志木市中泉4-3-38-601	(048)472-8772	沖電気工業 株式会社	(03)8445-6085	16.12.01
長崎 富士	190-0003	文京区南町2-53-6	(03)2635-9906	南武多摩川電車事務所	(03)5717-1022	16.12.01
永田 豊明	857-0136	佐賀県市南町19-15	(095)49-2774	厚生労働省 佐賀県庁	(095)631-6724	16.12.01
中澤 純一	229-0004	福岡県市古賀区2-26-2	(047)274-0048	三井住友海上火災 株式会社	(047)236-1134	16.12.01
松崎 公平	861-1201	熊本県市南区市町吉富250-123	(096)338-2629	富士通・システムズ・サービス・センター	(096)531-5178	16.12.01
熊島 定雄	277-0853	柏市新橋町3-11-12	(047)734-3066	株式会社 東電	(03)5470-1010	16.12.01
三上 不二男	004-0002	北海道札幌市清田区里塚3条5丁目9-21	(011)885-1349			16.12.01
白土 紀生	820-0021	福岡県市南区市町吉富250-123	(094)821-1316			16.12.01
高橋 治夫	087-0027	北海道札幌市東区南1条3丁目28-4	(011)385-9040	ジョイント・システムズ・サービス	(011)832-3940	16.12.01
黒田 孝	350-0442	埼玉県入間郡市川町市街154-189	(049)295-0248			16.12.01
熊田 俊幸	232-0075	横浜市市南区市街1-1-403	(045)731-5723	東邦通信工業株式会社	(03)5362-5112	16.12.01
長岡 隆	350-2205	埼玉県鶴ヶ島市市街25-8-16	(049)285-4961	八木アパレル株式会社	(03)5337-8691	16.12.01
川口 昌郎	239-0844	横浜市市南区市街1丁目11番19-1003号	(046)833-0794	都立総合学習	(03)3463-4113	16.12.01
鈴木 健	214-0039	川崎市多摩区栗谷2-20-3	(044)966-7720	株式会社 東芝	(03)3457-8458	16.12.01
宮田 道明	272-0505	市川市大野町4-3153-204	(047)337-8891	株式会社 東芝	(044)548-5101	16.12.01
角田 幸重	244-0002	横浜市市南区市街321	(045)854-7886	日本電機株式会社	(03)5252-3381	16.12.01
中村 好男	590-1126	埼玉県川崎市市街2-13-2-108	(049)245-8709	日本電機工作株式会社	(03)3930-5721	16.12.01
記伊 和喜	362-0034	埼玉県上尾市市街2-15-10	(048)772-9329	日本電機株式会社	(042)333-1064	16.12.01
堀見 誠	350-1133	埼玉県川崎市市街2-15-10	(049)233-7703	株式会社 桜井製作所	(049)238-1191	16.12.01
黒島 誠二	861-0006	熊本県市南区市町7-32-16	(096)337-4540	同業高専学校	(096)366-1201	16.12.01
江川 清忠	239-0831	横浜市市南区市街105号	(046)834-9256	同業高専学校	(045)786-7012	16.12.01
佐藤 昌則	195-0057	町田市市街光寺1-6-1	(042)737-0415	富士通(株)特種システム本部	(03)3221-8301	16.12.01
井川 昌二	239-0835	横浜市市南区市街105-708	(046)833-4544	株式会社 オートコム	(046)741-6802	16.12.01
堀田 安之	861-0075	埼玉県川崎市市街2丁目0-23	(049)243-4534	熊本県市南区市街市街南販組合	(096)351-6982	16.12.01
村山 清之	351-0015	埼玉県川崎市市街2丁目0-23	(049)243-4534	新水電工工業(株)	(045)593-7530	16.12.01
渡辺 次男	179-0073	東京都品川区田町3-18-8-602	(03)6761-2023	古河電池株式会社	(045)336-5034	16.12.01

に加わりました。編集幹事5名うち3名の同時交代でしたので編集がスムーズに進むしか配しましたが、全員の協力により何と発刊にこぎつけられました。

紙面では、新信友会会長重村の巻頭言ならびに中村通信学校ほか3名の通信行政・業務を先ざれておられる現役の方々のこの稿をいただきました。また、陸通信電子課からは陸上自衛隊の信電子の現況を紹介いただきました。お忙しい中をありがとうございます。昨今における陸上衛隊の変革の様子や通信電子業